

新型コロナウイルス感染症に係る農林水産業への影響と対応について

【農林水産業における影響】

1 調査の概要

新型コロナウイルス感染症により、社会経済活動への影響が長期間に及んでいることを踏まえ、前回調査（令和3年11月）以降の農林水産業への影響について、県内農林漁業者及び関係団体に対し聞き取り調査を実施した。

【調査期間】令和4年1月7日から1月26日まで

【調査数】180（農業95・畜産業31・水産業18・林業36）

2 分野別の主な状況

(1) 農業

- ・ 昨年9月末の緊急事態宣言解除に伴い、飲食店での利用が中心の「すだち」、「つまもの」やイベントで使用される「花き」の販売は一時回復、しかし、1月はオミクロン株の急拡大により再び悪化している
- ・ 家庭消費向けの野菜・果実の販売は堅調な品目が多いが、一部品目では、巣ごもり需要の落ち着きや外食需要の回復が不十分なため、販売が振るわないとの声もある
- ・ 米は、過剰在庫の解消には至っておらず、厳しい販売状況が続いている

① 売上げの状況（2021年11月期・12月期実績、2022年1月期見込み）

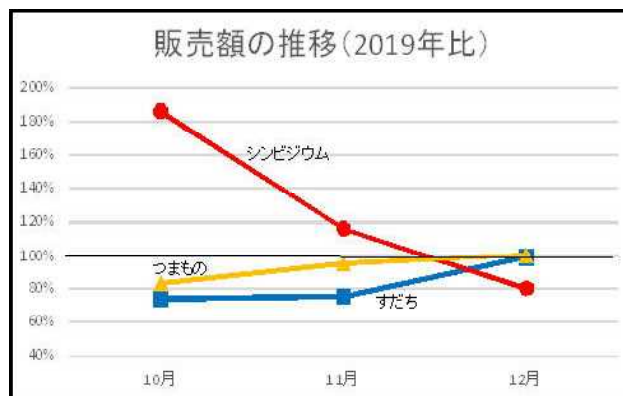
	減少した	変わらない	増加した
2019年度同期比	48%～44%	37%～35%	17%～12%
2020年度同期比	42%～34%	36%～34%	31%～19%

② 市場販売の状況

- ・ 「ブロッコリー」は、秋に出荷増量するも売れ行き好調、「かんしょ」は、安定した販売が継続、「だいこん」は、他産地とも豊作で出荷調整を実施
- ・ 「シンビジウム」は、イベントの再開によりコロナ前の水準にほぼ回復、「すだち」、「つまもの」も飲食店の再開に伴い、販売は持ち直し



東京・大阪市場販売状況 県調べ

東京・大阪市場販売状況 県調べ
関西生花市場市況

③ 生産者等の声

現状について

- ・ 販売状況に変化はない（かんしょ、れんこん、なす、ブロッコリーなど）
- ・ 10月から年末までの価格は平年並みに回復、今年に入りオミクロン株の影響で単価が低下（冷蔵すだち）
- ・ 12月までは徐々に注文が増加したが、1月の感染急拡大とともに再び悪化（つまもの）
- ・ 秋からブライダル需要が増加したが、1～2月は注文のキャンセルが続いている（シンビジウム）
- ・ 作柄の状況もあるが、飲食店・加工用需要の回復が十分でないことや、量販店の引合いが弱まり単価安（だいこん、なのはな、ハウスきゅうり、しいたけ）
- ・ 全国的な在庫過剰は変わらず、厳しい販売状況が続いている（米）

これまでの県の対策について

■徳島県産香酸柑橘等の産地強化支援事業

- ・ 東北など新規消費地へのPR活動により、産地支援につながった（すだち）
- ・ 一般消費者向けの商品開発や取引先の開拓に利用し、大変助かった（つまもの）

今後について

- ・ 燃油、資材価格の高止まりを懸念（ハウスきゅうり、シンビジウムなど）
- ・ 出荷最盛期にコロナ感染した場合を懸念している（いちご）
- ・ 出荷開始（3月）までに感染状況が改善しなければ大打撃（ハウスすだち）
- ・ 今後、厳しい販売状況を予想、販売品目や販路の変更、新規開拓の必要性がある（つまもの）
- ・ 次年度産においても更なる米価下落を招かないか心配（米）

(2) 畜産業

- ・ 畜産物の販売は一定の価格を維持しているが、「阿波尾鶏」など高価格帯品目については、依然厳しい販売状況にある
- ・ 飼料や燃油、資材などの高騰により生産コストが上昇している

① 売上げの状況（2021年11月期・12月期実績、2022年1月期見込み）

	減少した	変わらない	増加した
2019年度同期比	45%～39%	52%～45%	10%～6%
2020年度同期比	39%～32%	65%～58%	6%～3%

② 市場販売の状況

- ・ 和牛肉、豚肉ともに、コロナ前の水準で相場は推移、ブロイラーは、家庭内需要の後押しもあり、高値基調で推移



大阪中央卸売市場 市況情報
農林水産省 食鳥卸売価格の旬別動向 (東京都)

③ 生産者等の声

現状について

- ・ 飼料価格の高騰と品不足（肉用牛、酪農、養豚）
- ・ 販売復活のきざしが見えていたが、オミクロン株のまん延に伴い急速に悪化（阿波尾鶏）
- ・ 宣言解除後も業務加工用の回復は鈍い（鶏卵）
- ・ 牛乳の消費が伸び悩んでいる（酪農）

これまでの県の対策について

■学校給食等「阿波尾鶏」利用拡大事業

- ・ 過剰在庫の解消や新たな販路先の開拓につながった（阿波尾鶏）

今後について

- ・ 飼料や敷料、燃油価格のさらなる高騰による収益性の悪化を懸念
- ・ 自給飼料の作付拡大を検討（肉用牛）
- ・ 相場の影響を受けにくい阿波尾鶏や加工受注の販売を強化（阿波尾鶏）
- ・ 鳥インフルエンザ発生により、一旦減少した羽数が回復し、卵価は低下の見込み（鶏卵）
- ・ 学校の春休みによる需要の低下を懸念（酪農）

(3) 水産業

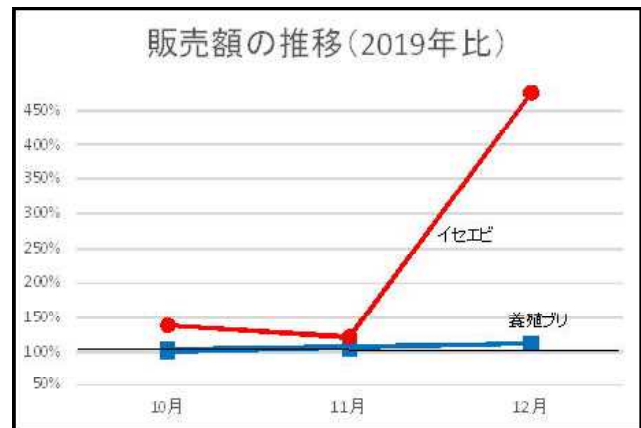
- ・ 緊急事態宣言解除後は、高価格帯品目を中心に相場は回復したが、1月の感染急拡大以後は、再び厳しい販売状況となっている

① 売上げの状況（2021年11月期・12月期実績、2022年1月期見込み）

	減少した	変わらない	増加した
2019年度同期比	39%～28%	28%～17%	39%～22%
2020年度同期比	44%～33%	33%～22%	28%～11%

② 市場販売の状況

- ・ 「イセエビ」は、百貨店等のおせち需要が好調、出荷数量、単価ともにコロナ前の水準を上回った
- ・ 「養殖ブリ」は、全国的な種苗の不足による入荷減少で、販売単価は堅調に推移



大阪市中央卸売市場 市況情報

③ 生産者等の声

現状について

- ・ 昨年9月末の緊急事態宣言解除後から徐々に販売は回復、年末は例年の価格に戻った感がある（鮮魚）
- ・ 11月、12月の販売は好調であったが、1月のオミクロン株の感染拡大以後は、厳しくなった（イセエビ）
- ・ 大衆魚のため限定的ではあるが、コロナの影響は出ている（シラス）
- ・ 注文は減少したまま変わらない（わかめ）

これまでの県の対策について

■水産物需要喚起推進事業

- ・ 首都圏の飲食店との連携は、アフターコロナにおける県産水産物の取引拡大が期待できる

■持続的漁業生産緊急支援事業

- ・ 水産資源の保護だけでなく、漁業関係者の事業継続につながった

今後について

- ・ 緊急事態宣言の発令により、魚価の低迷を心配している
- ・ 感染拡大により営業活動が停止し、取引量が確保できるのか懸念
- ・ 燃油価格が高止まりし、経営の圧迫を懸念

(4) 林業

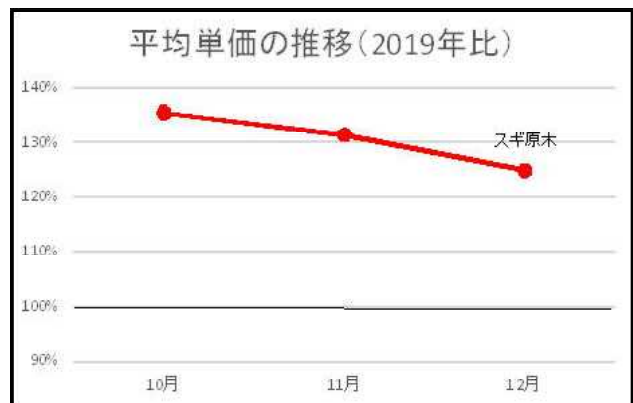
- ・ 外国産材に替わる県産材の需要は高く、素材生産者は増産に取り組んでいる
- ・ 加工業者、製材業者では、原材料不足、仕入れ価格が上昇したとの声がある

① 売上げの状況（2021年11月期・12月期実績、2022年1月期見込み）

	減少した	変わらない	増加した
2019年度同期比	22%～11%	31%～25%	58%～44%
2020年度同期比	17%～11%	39%～22%	58%～47%

② 市場販売の状況

- ・ スギ原木の価格はコロナ前の水準を超えているが、増産の取組みにより落ち着き始めた



県内市場状況 県調べ

③ 生産者等の声

現状について

- ・ 販売価格は好調を保っており、生産事業を増加させている（原木）
- ・ 原材料不足と仕入れコストが増加し、収支は厳しい見込み（製材品）
- ・ 9月以降、受注が回復基調にあるが、材料の値上がりと流通が不足（住宅内装材）
- ・ 原木の入荷が減少、製造に必要な資材の調達も困難となっている（チップ）

これまでの県の対策について

■山の仕事を守るコロナ対策緊急支援事業

- ・ 作業道開設により搬出コストが下がり、利益率が上がった（原木）

■県産材安定供給対策事業

- ・ 旺盛な乾燥材需要に対し、乾燥機の導入が必要なタイミングでの事業は大変助かる（製材品）

今後について

- ・ 従事者の高齢化、人手不足による事業活動の低下（原木）
- ・ これ以上の販売単価上昇は考えにくい、量的不足も落ち着きを取り戻しつつある（原木）
- ・ 住宅建設に使用する木材以外に設備品等が不足しており、現場稼働率の低下を懸念（プレカット加工）
- ・ C材の供給量不足を懸念、素材生産量を増加させたい（チップ）

【徳島県の主な支援策】

○需要喚起や販路開拓・販路拡大

事業名	予算額 (千円)	担当課	備考
首都圏における「県産食材」需要喚起促進事業	41,500	もうかるブランド推進課	R3.9月補正予算
輸出事業者販路開拓支援事業	3,500	もうかるブランド推進課	R3.9月補正予算
県産米「あきさかり」需要拡大支援事業	3,000	もうかるブランド推進課 次世代農業室	R3.9月補正予算
うまいでないで！「阿波ふうど」魅力発信事業	14,000	もうかるブランド推進課	R4.16か月予算 (2月先議)
「徳島の食」販路拡大・ブランディング強化事業	30,500	もうかるブランド推進課	R4.16か月予算 (2月先議)
生産現場における国際規格認証取得支援事業	3,000	もうかるブランド推進課	R4.16か月予算 (2月先議)
「阿波地美栄」利活用拡大事業	3,150	鳥獣対策・ふるさと創造課	R4.16か月予算 (2月先議)
学校給食等「阿波尾鶏」利用拡大事業	22,000	畜産振興課	R3.9月補正予算
水産物需要喚起推進事業	30,000	水産振興課	R3.9月補正予算
市場価値の向上を目指す商品企画支援事業	1,500	水産振興課	R4.16か月予算 (2月先議)

○生産供給体制の強化

事業名	予算額 (千円)	担当課	備考
徳島県産香酸柑橘等の産地強化支援事業	55,000	もうかるブランド推進課 次世代農業室	R3.15か月予算
園芸産地生産体制強化事業	60,000	もうかるブランド推進課 次世代農業室	R3.9月補正予算
G X 対応型施設園芸促進事業	42,000	もうかるブランド推進課 次世代農業室	R4.16か月予算 (2月先議)
県産和牛ブランド飛躍事業	2,300	畜産振興課	R4.16か月予算 (2月先議)
酪農経営DX化促進事業	5,600	畜産振興課	R4.16か月予算 (2月先議)
次代につながる畜産経営モデル事業	5,500	畜産振興課	R4.16か月予算 (2月先議)
持続的漁業生産緊急支援事業	24,000	水産振興課	R3.9月補正予算
山の仕事を守るコロナ対策緊急支援事業	50,000	スマート林業課	R3.15か月予算
ウッドショック緊急対策 県産材安定供給対策事業 乾燥材供給体制整備事業	50,000 198,000	スマート林業課	R3.9月補正予算